

明日の大事をかかじと
今日はげむごとくすべし

法然上人

庚辰元旦口占
春光万里瑞雲中
旭日玲瓏度惠風
洛都禪林清淨境
老殘猶在梵王宮
禪林寺東



明けて迎えた「辰」の年。

「辰」は「伸」に通じ、すべてのものが伸びることをいいます。

手が動けば「振」。ことばを発するのは「唇」。新しい生命を宿せば「娠」。

貝（金）が動けば「賑」。

ことばも行動も財産も、使い方によって人を幸福にも不幸にもします。

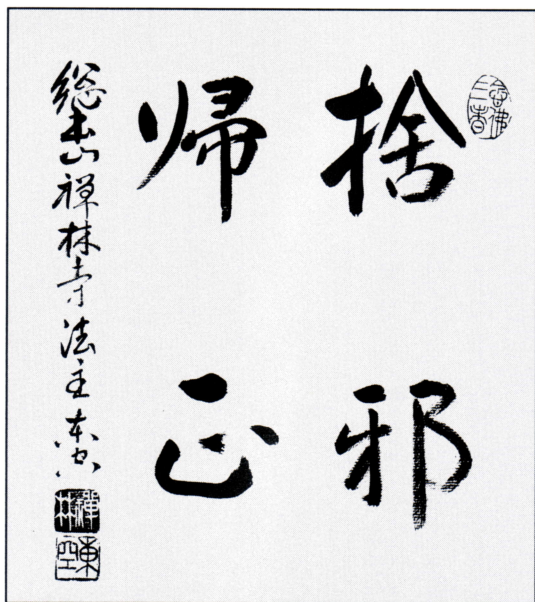
仏性という仏さまの命を体内に宿し、生かされている私であるという自覚から、自然に手が動いて合掌、唇に念仏の一行をはげめば、明日の幸せは約束されているのです。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長 森 準玄宛下のご染筆です。前号の色紙は、名古屋市昭和区在住 角田修司様に贈呈いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

捨邪歸正

広 懺 悔 文



正という文字。正は「一」に「止」と書きます。一にとどまる、それは、自らの根本・原点に立ち戻るといことです。

大切な根本・原点に帰るとは、私たち人間にとつての本物の生き方を、顧みることです。

もちつもたれつ生かされていることを喜ぶと共に、その感謝感激の気持ちを、どのように表現するのか、そこに人間の真価が現れます。

「一」という出発点は、私たちの帰結点にもなります。そして、帰結は、また新しい出発につながる働きになるでしょう。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長 森 準玄 猊下のご染筆です。前号の色紙は、大津市在住 高橋美江子 様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進展。

衆人皆師

衆人皆師

禪林寺法主徹空隆明



吉川英治氏は、人に乞われると、色紙に、「われ以外みなわが師」と、揮毫されたそうです。

「三人行えば則ち必ず我が師あり」とは、孔子の言葉。

後の世の人は、これを踏まえて、

「……貴となく賤となく、長となく少となく、道の存する所は師の存する所なり……」と、真理を先に会得した人を師とすると説いています。

すべての人をみなわが師と受けとめるところに、山川草木悉有佛性、「山の三角弥陀の三尊、松吹く風も聖衆来迎」といっただけではないでしょうか。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長 五十嵐隆明猊下のご染筆です。前号の色紙は、高知県安芸郡在住 武井 賢 様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月未抽籤で一名に進呈。

去此不遠

こゝを去ること遠からず

— 観無量寿經 —

去此不遠

禅林寺法主徹也・隆明



『阿弥陀經』には、「これより西方、十
万億の仏土を過ぎて、世界あり、名づけ
て極楽という」と、仏の国が遠くにある
ことが記され、『観無量寿經』には、「阿
弥陀仏の、ここを去ること遠からざるを」
と説かれています。

「極楽浄土は一所、努め無ければ程遠し、
我等が心の愚かにて、近きを遠しと思う
なり」と『梁塵秘抄』にうたわれているの
はこのことでしょう。

際限のない欲望にとらわれている者に
は、望んでも望んでも浄土は遠い存在。
自分に絶望する程人生に苦しみ仏を求め
る者には阿弥陀仏は生きる支え。浄土は
近い存在。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長五十嵐隆明親下のご染筆です。前号の色紙は、兵庫県神崎郡在住 笹倉あき子 様に贈呈いたします。
ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

我が子なり 我が財なり
と思惟して凡愚は苦しみ悩む
我の我已にあることなし
誰の子ぞ誰の財ぞ

『法句経』

誰の子ぞ
誰の財ぞ

総本山永観堂禅林寺

法主徹々隆明



我が子女を
自慢し
奢るは愚かなり
我が財力に
自惚れ
奢るも愚かなり
子も財も
すべて
仏より
預かるところなれば
我がものど
思うところに
苦悩は生まる
我が身とて
悉くすべては
仏より
預かりしものなれば

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長五十嵐隆明猊下のご染筆です。前号の色紙は、江南市在住 大脇和子 様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

ただ一向に

念仏すべし

ただ一向に
念仏すべし



総本山 禅林寺 法主 徹世 隆明



九州に住んでいた仙崖和尚の言葉に、「氣に入らぬ風もあるうに柳かな」があります。自分にとって、氣に入らない人や出来事があっても、柳のように、しなやかにサラリと流すという達観を伝える言葉です。

しなやかに生きるのは、腹が坐った生き方です。よれよれの生き方、浮き草の生き方ではありません。法然上人の言葉では、「ただ」という生き方になるでしょう。念仏に根を張れば、世の中の物事が、いかに矛盾に満ちていようと達観できるのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長 五十嵐隆明 猊下のご染筆です。前号の色紙は、姫路市在住 松岡昭美 様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月未抽籤で一名に進呈。

ながむる人の
心にぞすむ

ながむる人の
心にぞすむ

総本山 禅林寺 法主 徹世 隆明



悲しいとき

不安なとき

そんな時ほど聞こえる声がある

共に泣き

苦しみながら

大丈夫だよと

囁いてくれる声がある

でも本当は

その声はいつも

どんなときも充ちているんだよ

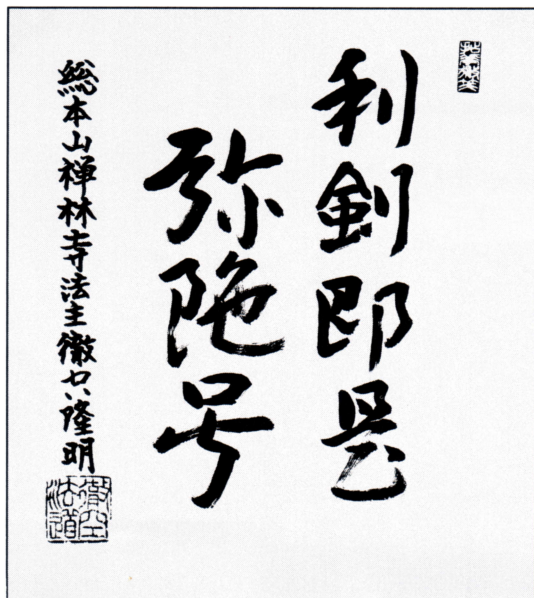
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長五十嵐隆明猊下のご染筆です。前号の色紙は、京都市左京区在住 増田喜代様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

利剣即是弥陀号

(善導大師)



私たちの中には、煩惱があります。怒りやねたみ、欲など、さまざまな煩惱が、私たちの中にあるのです。

この煩惱を、私たちはなくすことができません。あらゆる方法でなくそうとしても、私自身の中からは、煩惱を取り去ることができません。

しかし、煩惱に執着することがなければ、煩惱ははたらくことはありません。その執着する心を断ち切る剣があるのです。善導大師は、それこそが南無阿弥陀仏の名号だと示しています。

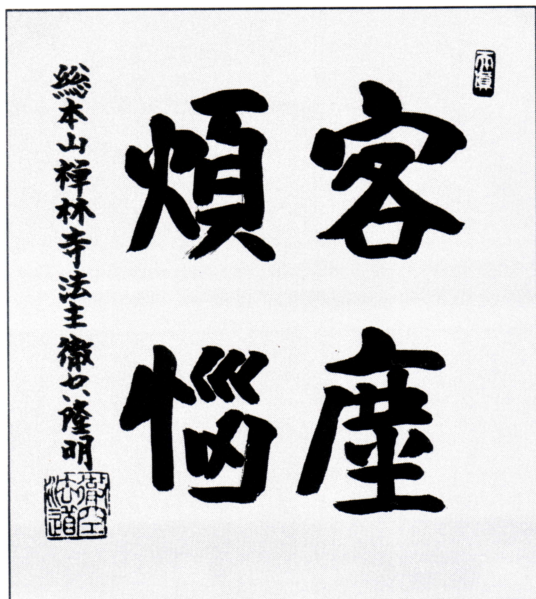
煩惱を持ったままでありながら、煩惱がはたらかない生活ができるのは、念仏のはたらきです。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長五十嵐隆明猊下のご染筆です。前号の色紙は、兵庫県城崎郡在住・谷山幸一様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月末抽籤で一名に進呈。

客塵煩惱
きやくじんぼんのう

『維摩經』



バブバブ
キヤツキヤツと

幼子は

からだ

いっぱいに
笑っている

この

純真無垢の

笑顔は

お母さんへの

無類の

贈り物

それが

年とともに

この笑顔にも

打算が

入ってしまうんだな

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長五十嵐隆明猊下のご染筆です。前号の色紙は、愛知県大府市在住 浅井ふみ子様 に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

じょうえ ひ かん
常懷悲感
しんすい せい ごと
心遂醒悟

『法華経』

悲しみは見つめねばならない

常懷悲感
心遂醒悟



然本山禪林寺法主徹世隆明



手を握りしめに行つた
よく撫でてくれた
荒れたざらざらの手は
幾分かなめらかに、
その分弱々しかった

ごめんな。ごめんな。
あたたかかったのに。

あたたかいはずなのに。
私が誰だかわからないであろう。

それでもあなたの手を握りしめたかった

ごめんな。ごめんな。

老親に言っているのか、
自分に言いわけしているのか。

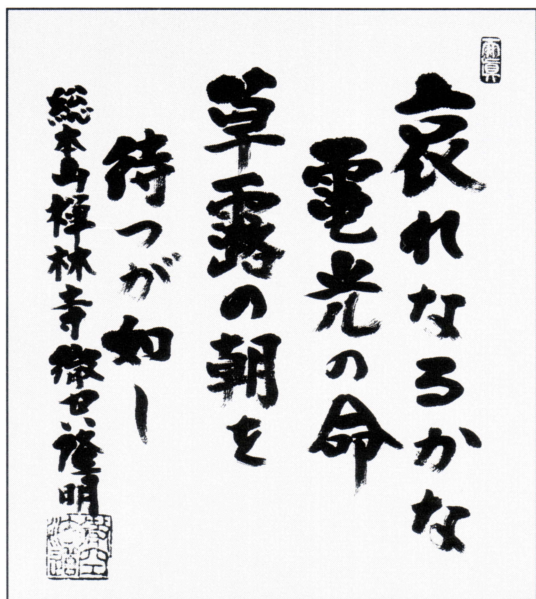
ごめんな。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長 五十嵐隆明猊下のご染筆です。前号の色紙は、京都市東山区在住 木村三栄様に贈呈いたします。
ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

哀^{あわ}れなるかな電^{でん}光^{こう}の命^{いのち}、
草露^{そうろう}の朝^{あした}を待^まつが如^{ごと}し。

西山上人『五段鈔』

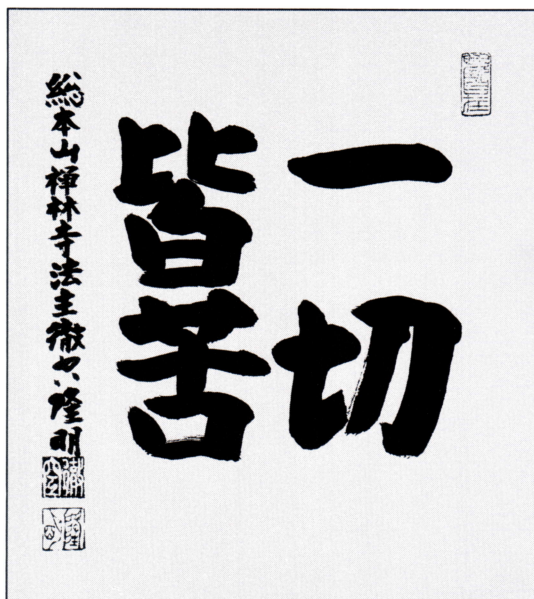


総本山 禅林寺 僧 世隆 明

母に
抱かれた記憶
つゆと消え
幼き日
若き日々は
忘却の
かなたに失せ
壮齡期
ただ
多忙と
疲弊ばかり
気が付けば
我が命
消えゆく露がごと
哀れ
はかなくも
悲しかれ

総本山 永観堂 禅林寺

苦く諦たい（一切皆苦）



のがれられぬ苦しみを
認めることから
仏教ははじまった。
苦諦という。

老も病もさけられず
死をまぬがれることなどない。

まして宝くじがあたったり、
良縁にめぐまれたり、
そんな自分勝手な願い、
それらすべては苦のもと。

どうにもならない苦に、
どうやって立ち向かうのか。
それを教えてくれるのが
仏教である。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長五十嵐隆明猊下のご染筆です。前号の色紙は、岐阜市在住 河嶋敏之様に贈呈いたします。
ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。